

# 京丹後市における観光振興態勢の変革

一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社（海の京都DMO）京丹後地域本部

# 京丹後市観光公社（KTA）構想

京丹後市観光協会  
京丹後市商工観光部

— 令和元年5月29日 —

Kyotango  
Tourism  
Association

# 京丹後市観光協会の変遷

平成15年	丹後観光協会連絡協議会発足	旧6町の観光協会の取りまとめ組織として設立。京丹後市観光協会の前身。
平成16年 (4月)	京丹後市誕生	旧6町が合併し、京丹後市となる。
平成19年 (1月)	観光協会合併協議会発足	合併についての協議開始。
平成20年 (1月)	合併合意・調印	旧6町の観光協会長による合併の合意。
平成20年 (4月)	京丹後市観光協会発足	
平成26年	(一社)京丹後市観光協会発足	任意の団体から法人格を取得し、一般社団法人となる。
平成28年 (6月)	(一社)京都府北部地域連携都市圏振興社(海の京都DMO)設立	京都府北部7市町による「海の京都構想」に基づき、法人格の団体を設立。随時、域内の観光協会が統合参画する。
平成28年 (7月)	(一社)京丹後市観光協会を解散し、海の京都DMOへ統合参画	法人を解散し、天橋立観光協会とともに「海の京都DMO」へ参画。

# 京丹後市の「観光」を取り巻く背景と現状

**国** 人口減少と少子高齢化 1億2,709万人'15年→1億1,092万人'40年  
…定住人口1人当たりの年間消費額 (125万円) は、観光消費に換算すると、  
国内旅行者(宿泊)25人分、同(日帰り)80人分、外国人旅行者わずか8人分。  
(観光庁)

**京都府** 府域の1人当たり観光消費額 (1,854円) は、京都市 (21,013円) の1/10  
…ブランド力の高い「滞在型観光」の整備、京都市と府域の「周遊型観光」の形成、モノからコトへの「体験型観光」の軸足  
(京都府観光総合戦略(案) より)

**京丹後市** 観光客の滞在時間が短い、二季型観光、インバウンドが  
不十分、観光地としての認知度低い、高評価の「食」の活用不足、地域資源の活用不足、観光業の人手不足 …等々課題が多いうえに、さらに…  
●市観光協会の機能低迷 ●効果的な市観光施策の欠如

## 【京丹後市観光協会の機能低迷】

### ■ 京丹後市観光協会が抱える課題

#### 事業活動の停滞

- ・トップマネジメント力の不足
- ・人財(職員)が生かされていない
- ・資金が生かされていない

#### 協会員からの期待薄

- ・時代に合った事業ができない
- ・協会員の望む事業ができない
- ・膨大な支部関連事務で忙殺

#### 低い職員定着率(3~4年)

- ・勤務条件の悪さによるモチベーション低下
- ・劣悪な職場環境

※自助努力だけでは悪循環から脱却できない

## 【効果的な市観光施策の欠如】

### ■ 市観光部局が抱える課題

#### 「中立公平」の弊害

- ・事業者ごとに対応できない  
(やる気、資金力、経営方針等)
- ・“広く薄く”で費用対効果低い

#### ニーズへの即応不足

- ・施設の管理・保全に忙殺
- ・必要時期と予算化時期のズレ
- ・制度改廃に対する受益者の抵抗

#### 専門性の欠如

- ・人事異動によるノウハウの不蓄積
- ・サービス業に対する経験値不足
- ・「稼ぐ」ことへの潜在的抵抗感

※観光分野における行政サービスの限界

## 観光協会

仕事の質を**変える**。推進体制を**強化**する。

- ▶「ソフト事業」で観光地をブランディング
- ▶「旅ナカ」から「旅マエ」へ、「対観光客」から「対協会員」へ
- ▶安定雇用・スキルアップ・支部との役割分担

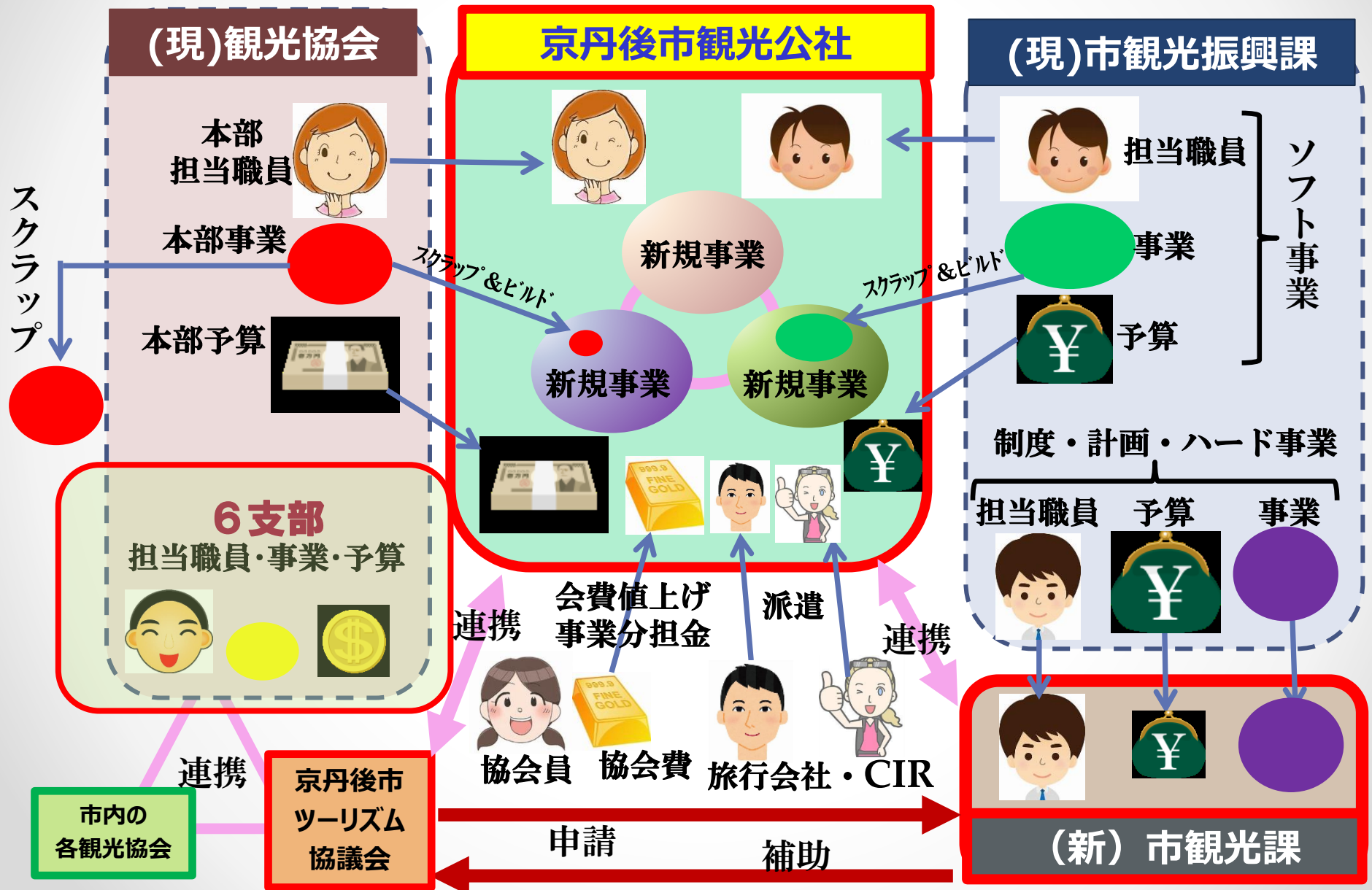
観光施策の**選択と集中**。

市観光部局

- ▶「ハード、計画、制度」で観光地をブランディング
- ▶関係団体の総合調整

観光協会も市も、  
全体で「**変革**」が必要。

# 京丹後市観光公社の設立イメージ





**京丹後市観光公社（KTA）は  
観光業界の「稼ぐ力」を引出し、  
豊かな地域づくりを進めます。**

**～ 付加価値の高い観光地を目指して ～**

**— END —**